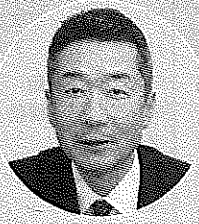
THE CHEMICAL DAILY
化學工業日報
2021年（令和３年）
７月15日 木曜日
第24578号（日刊、土・日・祝日除く）

川瀬産業


川瀬社長

使用後容器をペレット化

回収量増、洗浄工程も刷新

川瀬産業はネットワークを拡充、使用ずみプラスチック容器のさらなる回収拡大とリサイクルを進め、持続可能な社会に貢献していく。同社は主に化学業界から発生する使用ずみポリエチレン（PE）やポリプロピレン（PP）をメインに、プラスチックのマテリアルリサイクルを実施、最大の特徴が化学を熟知する視点から再資源化を行っている点だ。独自の排水処理設備を完備し、マテリアルリサイクルが困難な薬剤付着容器なども洗浄・粉砕し、ペレット化できるのが強みで、一部は製品化し独自ブランド「リプラギ」展開も強化している。創業1966年という歴史もあり信頼性は高い。

近年、半導体産業を中心に製造に用いる化学薬品の需要拡大が続くが、それら液体輸送に使用される樹脂容器に関して「使用後のリサイクルについてはまずは川瀬産業に相談を、と言っていただいている。最近は使用ずみ容器のリサイクルを前提で化学工業薬品を容器ごと購入するユーザー企業も多くなり、当社への引き合いも増えている」（川瀬幸久社長）という。そうした二ーズに即対応すべく容器メーカーと連携し独自のリサイクルシステムも構築している。

昨年、同社は静岡工場で一部使用ずみ容器の受け入れを開始し、回収量を拡大するとともに、本社工場との2拠点化による事業継続計画（BCP）の強化や顧客の利便性向上を図った。本社工場でも洗浄工程をブラッシュアップし、従来除去できなかった汚れにも対応、再資源化の品質向上を図るなど、受け入れ体制の充実を進めた。

現在、力を入れているのがサスティナビリティ経営。会社ロゴも一新し健康経営の推進や小学生の工場見学など地域社会との共生を推進、SDGs（持続可能な開発目標）への貢献にもつながっている。「SDGsは世界的な潮流。今後は今以上に海外からの輸入品にも注目している。海外薬品メーカー・輸入商社・港湾荷役・小分け会社とのネットワークにも力を入れていく」（同）とさらなる拡大を目指す。